平成29年 2月

河 内 長 野 市

目　次

第１章 河内長野駅周辺地区まちづくり方針とは

１ 方針策定の背景と目的 1

２ 方針の対象区域 2

３ 方針策定までの経緯 2

第２章 現状と課題

１ 暮らしの視点 3

２ にぎわいの視点 3

３ 観光の視点 4

第３章 まちの将来像

将来像1 安心･安全に暮らせる利便性の高いまち 5

将来像2 都市機能が充実した活気のあるまち 5

将来像3 市の玄関口にふさわしい、「河内長野らしさ」が感じられるまち 6

第４章 将来像の実現に向けて

１ 基本方針及び取組み内容 7

２ まちづくりのイメージ 9

３ 取組みスケジュール 10

４ 将来像のイメージパース（鳥瞰図） 11

第１章　河内長野駅周辺地区まちづくり方針とは

１　方針策定の背景と目的

本市は、豊かな自然環境や歴史・文化遺産などの地域資源に恵まれ、交通の結節点としての利便性の高さや災害が少ないことなどの利点を活かして、高度経済成長期に都市基盤を整備し、暮らしやすく良好な住宅都市として発展してきました。

一方、現在、日本全体が人口減少や少子高齢社会を迎えており、本市も高度経済成長期の開発団地を中心に急激な人口減少、少子高齢化が進んでいます。

そのような状況を受け、本市は、まちの活力を維持・向上するとともに、次代に相応しい魅力ある都市として持続、発展していくため、「河内長野市第5次総合計画」及び「河内長野市都市計画マスタープラン」にて、将来都市構造として、将来の人口規模・構造や都市活動に適応した「集約連携都市（ネットワーク型コンパクトシティ）」を示しました。

その将来都市構造の中で、河内長野駅周辺は行政サービスや生活利便施設などの都市機能を集積し、歩いて暮らせるまちづくりを進める「都市拠点」として位置付けられています。

しかし、現状の河内長野駅周辺地区は、高度経済成長期のモータリゼーションによる市民生活の広域化などの影響を受け、特に本市商業の中核であった長野商店街は空き店舗や空き地が多くの割合を占めるなど、衰退した状況となっています。また、道路環境についても、都市計画道路河内長野駅前線の未整備など、歩いて暮らせるまちづくりへの対応が十分でない状況となっています。

以上のような様々な課題を抱える河内長野駅周辺地区が、本市の「都市拠点」及び「顔」として、ふさわしいまちづくりを進めるため、地域の方々や民間事業者、行政が共有できる将来像を定め、同じ方向で取り組むことにより、効果的なまちづくりを進めることを目的に、「河内長野駅周辺地区まちづくり方針」を策定しました。

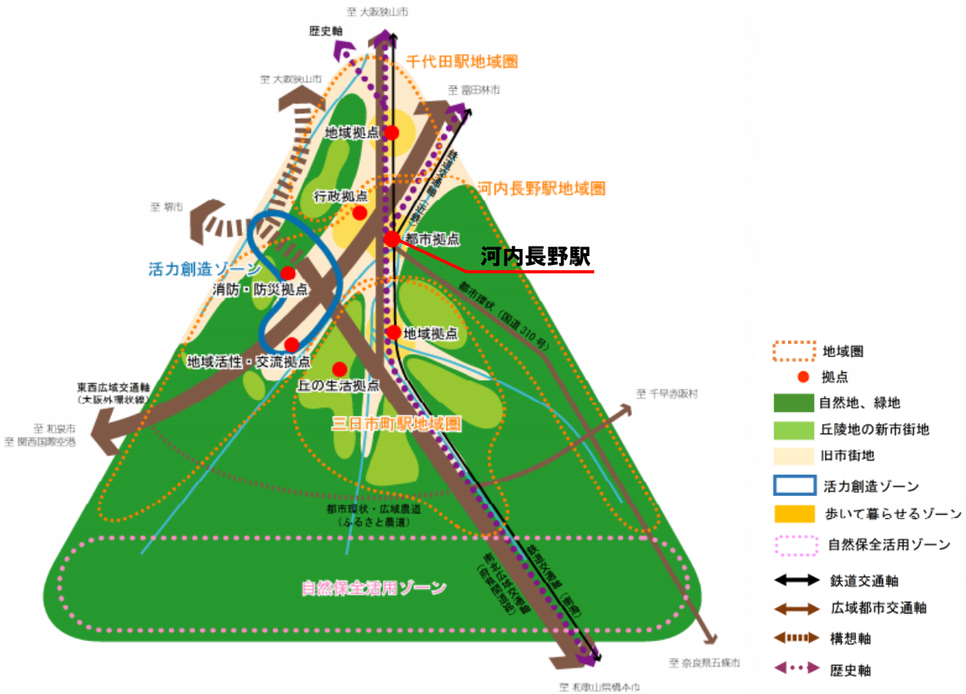


図1　河内長野市都市計画マスタープラン「都市将来構造図」

２　方針の対象区域

本方針の対象区域は、河内長野駅周辺のうち、商業・業務・文化・居住などの複合的な都市機能が集積している地域に加え、本市の魅力である歴史・文化遺産や自然空間を含めた概ね下図の範囲とします。

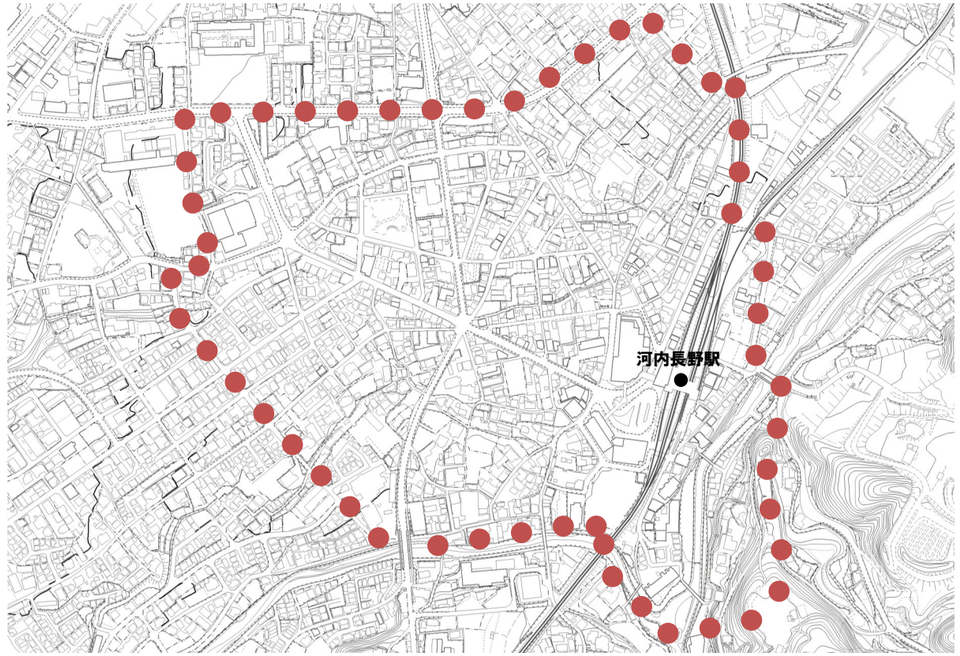


図2　まちづくり方針対象区域

３　方針策定までの経緯

本方針を策定するにあたっては、下記のとおり、地元権利者を中心とした関係者とともに意見交換や検討を行いました。

平成26年度	河内長野市にて、関係団体、地域住民、庁内関係課等にヒアリングを実施し、素案を作成。
平成27年度	平成26年度に作成した素案をもとに、長野商店街を中心とした土地建物所有者、事業者等とともに、まちづくり方針の策定に向けた検討を実施。
平成28年度	平成27年度の検討内容をもとに、都市計画道路河内長野駅前線未整備区間区域内の土地建物所有者や事業者、その他関係者の方々も含め、まちづくり方針案のとりまとめを行い、平成29年2月に策定。

第２章　現状と課題

まちづくり方針を策定するにあたり、現在の河内長野駅周辺地区の現状と課題を整理します。

河内長野駅周辺地区は河内長野市の核としての都市拠点の役割に加え、鉄道2路線及び路線バスが乗り入れる交通結節点として河内長野市の玄関口でもあることから、当該地区に暮らす住民や事業者のみではなく、市民や来街者にヒアリングを行い、にぎわいや観光など多様な視点から整理を行いました。

1　暮らしの視点

①都市計画道路河内長野駅前線の未整備

現状 河内長野駅から長野中学校までの区間は都市計画道路河内長野駅前線として都市計画決定をしていますが、現在河内長野駅からラブリーホールまでの区間が未整備の状態です。

課題 区間内の七つ辻交差点の右折レーン未整備による交通渋滞や、狭小な歩道による歩行者通行上の危険などが課題となっており、対策が求められます。

②空き家・空き店舗・空き地の増加

現状 長野商店街を中心に、空き家・空き店舗・空き地が増加しており、賑わいの低下はもとより、居住者にとっても防災防犯上の不安や人口の低下など多くの問題があります。

課題 今後は土地の集約及び建築物の共同化によるまちの更新などにより、まちの防災防犯性の向上や、昼間人口はもとより夜間人口の回復も求められます。

③生活利便施設の不足

現状 河内長野駅周辺地区では、日常生活に必要な買物・サービスについて、業種の偏りや、ワンストップで対応できていないなど、利便性の不備があります。

課題 今後は歩いて暮らせるまちづくりを進める上で、日常生活に必要な買物・サービスなどの利便性の向上が求められます。

2　にぎわいの視点

①商業機能の低下

現状 河内長野駅周辺地区の商業機能は、高度経済成長期のモータリゼーションによる市民生活の広域化に伴って衰退しており、特に商業の中核であった長野商店街は空き地・空き店舗が増加しています。

課題 今後は、ロードサイド型商業にはないヒューマンスケールの魅力的な商業空間を形成し、市民が訪れたくなるような商業機能の展開が求められます。

②都市機能の空洞化

現状 商業機能と同じく、市庁舎や図書館など多くの公共施設等の都市機能もモータリゼーションの影響を受け、市街地全体に分散している状況です。

課題 市の都市拠点として、今後、都市機能・都市施設を更新・導入する際は、河内長野駅周辺地区での立地検討が求められます。

③魅力的な核となる施設の立地

現状 河内長野駅周辺地区にはノバティながのや、ラブリーホール、子ども・子育て総合センター「あいっく」など、市の核となる魅力的な施設が立地しています。

課題 今後は、交流人口増加に向けた新たな核となる施設の立地検討や、施設単体での取組みだけでなく、互いの魅力を活かしながら連携し、エリア全体で集客や魅力向上を図る取組みが求められます。

3　観光の視点

①歴史的まち並みや豊かな自然等の観光資源

現状 河内長野駅周辺地区には、酒蔵通りを中心とする高野街道のまち並みや、長野公園・石川などの豊かな自然等の観光資源が点在しています。

課題 今後は、景観や自然の保全に努めつつ、各資源を繋ぎ合わせ、線や面としてエリアで一体的に活用を図ることが求められます。

②市内各地へのターミナル機能（市の玄関口）

現状 河内長野駅は鉄道2路線が乗り入れる交通結節点であることに加え、観光地を含めた市内各地へアクセスする路線バスや関西国際空港リムジンバスのターミナルとなっています。

課題 今後は、交通環境の向上やバス利用の促進などにより、市内各地へのアクセスの更なる向上を図ることが求められます。

③観光ニーズに対するミスマッチ

現状 多くの観光客や登山客が河内長野駅に訪れており、飲食や温浴、土産物に加え、新規来訪者にも分かりやすいサインや大型観光バスの駐車場など新たなニーズが生まれています。

課題 今後は、既存施設の有効活用・PR等を含め、ニーズを捉えた戦略的な取組みを行っていくことが求められます。

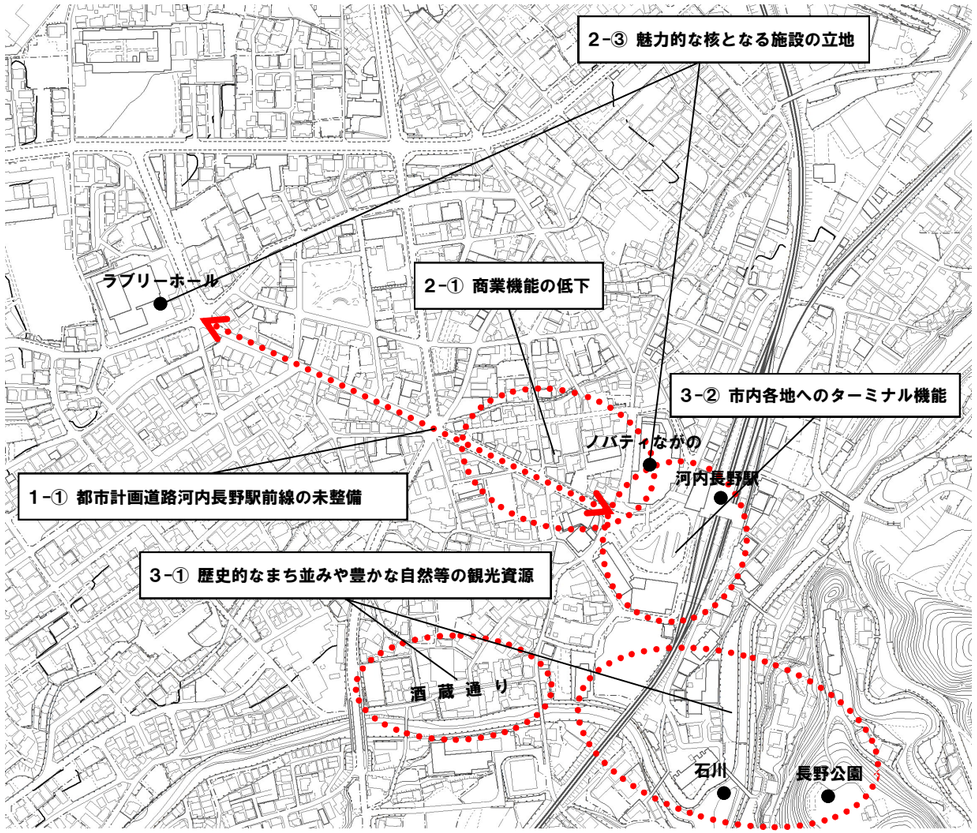


図3　現状と課題イメージ図

第３章　まちの将来像

現状と課題を踏まえ、本市の都市拠点としてふさわしいまちづくりを目指すため、以下の3つを将来像としました。

将来像1

安心・安全に暮らせる利便性の高いまち

「歩いて暮らせるまち」として、地域住民や市民が安心・安全に暮らせる利便性の高いまちを目指します。

子育て世代や高齢者に対する福祉の充実、買物・サービスなどの日常生活の質を高めることに加え、ゆとりのある歩道を持つ道路整備を行うことや、建築物の更新による木造建築物の不燃化の推進などにより、より一層の生活環境の充実や、まちとしての防災・防犯力の向上を図ります。

ハード整備にあわせ、地域のつながりを顕在化させる取組み等も推進し、誰もが安心・安全にゆったりと暮らせる、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。

まちのイメージ

- 誰もが安心・安全に歩きたくなる居心地のよいまち
- 日常の買い物や生活サービスが充実したまち
- 福祉、子育てサービスが充実し、幅広い世代が安心して暮らせるまち

将来像2

都市機能が充実した活気のあるまち

「市の都市拠点」として、都市機能が充実した、市民が集い、にぎわいや活気が生まれるまちを目指します。

特に長野商店街においては、建築物共同化などによるまちの更新によって、商業機能のみでなく、新たな都市機能や市民交流の場などを創出し、市民が集うまちの再構築を図ります。

また、ノバティながのやラブリーホールなど既存の核となる施設を活かし、集客を図るとともに、文化・芸術など様々な市民活動を促進し、市民のまちづくり機運を醸成させ、市民が誇りと思う本市の「顔」としてのまちづくりを進めます。

まちのイメージ

- 市民が集い、にぎわいや文化をつくるまち
- 家族や友人と訪れ、多くの時間を過ごせるまち
- 公共施設や文化施設など多くの施設が集積し、市の核となるまち

将来像3

市の玄関口にふさわしい、「河内長野らしさ」が感じられるまち

「市の玄関口」として、市外からの来訪者が市の魅力を感じることのできるまちを目指します。

河内長野駅周辺に位置する酒蔵通りや長野公園、石川などの地域資源の活用を図るとともに、市の玄関口として、市内各地へのアクセス向上や、誰でもわかりやすいサインの整備など、来訪者への利便提供を図ります。

また、市の魅力の情報発信や、河内長野の自然、高野街道のまち並みなどの地域資源を活かしたデザインを取り入れるなど、訪れた人が市の魅力を十分に感じ、河内長野駅から、市内各所へ足を運びたくなるまちづくりを進めます。

まちのイメージ

- 高野街道のまち並みを活かし、歴史を感じることのできるまち
- 河内長野の自然を、五感で感じることのできるまち
- 市内各地へ足を運びやすく、分かりやすい、市の玄関口となるまち

第４章　将来像の実現に向けて

１　基本方針及び取組み内容

前章で定めた将来像の実現に向けて、以下の基本方針及び取組みを示します。

将来像１　安心・安全に暮らせる利便性の高いまち

基本方針　誰もが安心して便利に暮らせる環境づくり

①道路環境の改善

都市計画道路河内長野駅前線の整備促進など、歩道の整備・拡幅やバリアフリー化などに取り組み、「歩いて暮らせるまち」にふさわしい、安全かつ快適な歩行空間を創出します。

また、併せて交通事故や渋滞の原因となる交差点の改良等、自動車のアクセス向上も図ります。

②生活サポート機能の充実

医療、保育、教育等の各種サービスや日用品の買物など、生活に必要な機能の充実を図り、歩いて暮らせるまちづくりを進めます。

③防災・防犯力の向上

誰もが安心して暮らせるよう、木造建築物の不燃化の推進などにより、まちとしての防災力を向上させます。また、地域の取組みや防犯設備の充実などにより、防災・防犯力の向上を図ります。

④居住環境の整備促進

高齢者、若者、子育て世代など、多様なニーズに対応した住宅の供給を促進し、まちなか居住の推進を図ります。

将来像２　都市機能が充実した活気のあるまち

基本方針　人々が集い、交わる拠点づくり

①都市機能の集約

将来の人口減少を見据えた持続可能な都市経営を行うことに加え、人々が集う新たな拠点をつくるため、都市機能の新設・更新にあたっては、市の都市拠点である河内長野駅周辺への立地を検討します。

②飲食・ショッピングが楽しめる空間づくり

市の都市拠点として、飲食店や魅力ある商店の充実を図ります。空き店舗へ新規出店を促す仕組みづくりを検討するとともに、魅力的な店舗や資源を活用した定期的なイベント開催などにより、まちのにぎわいや人の回遊・滞留などを生み出します。

③誰もが気軽に使える空間・仕組みづくり

市民が集い、にぎわいや文化が生まれる市の都市拠点として、誰もが気軽に使用できる空間や仕組みづくりを行います。増加する空き地、空き店舗の有効活用を進めるとともに、公共空間の柔軟な活用を可能とする仕組みづくりを進めます。

④既存施設との連携

ノバティながのやラブリーホール、子ども・子育て総合センター「あいっく」などの魅力的な既存施設を互いの魅力を活かすための連携を促進し、エリア全体で集客や魅力向上を図る取組みを進めます。

将来像３　市の玄関口にふさわしい、「河内長野らしさ」が感じられるまち

基本方針　河内長野の魅力を感じる玄関づくり

①市の魅力の情報発信

市の玄関口として、来訪者や利用者が市の魅力を感じられるよう、観光地や店舗などの情報等市の魅力を広く発信する取組みを進めます。

②地域資源を活かしたデザイン

訪れた来訪者や市民が「河内長野らしさ」を感じられるように、公共施設を中心に店舗や住宅等に、おおさか河内材など自然・歴史の地域資源を活かしたデザインを取り入れる取組みを進めます。

③来訪者への利便提供

市の玄関口として、訪れた来訪者がスムーズに利用できるよう、地図やサインなどによる案内機能の充実を図ります。また、来訪者が便利かつ快適に利用できるよう、ニーズに応じた機能を提供するなどの「おもてなし」の取組みを進めます。

④市内各所へのアクセス向上

市の玄関口として、市内の観光地や主要施設などへのアクセス向上を図るため、交通環境の向上やバス利用の促進などの取組みを進めます。

⑤自然・歴史資源の保全と活用

河内長野駅周辺地区の魅力である酒蔵通りを中心とする高野街道のまち並みなどの歴史資源や、石川・長野公園などの自然資源を来訪者が訪れる核として活かす取組みを推進します。回遊性を向上させるとともに地区全体の魅力向上につなげます。

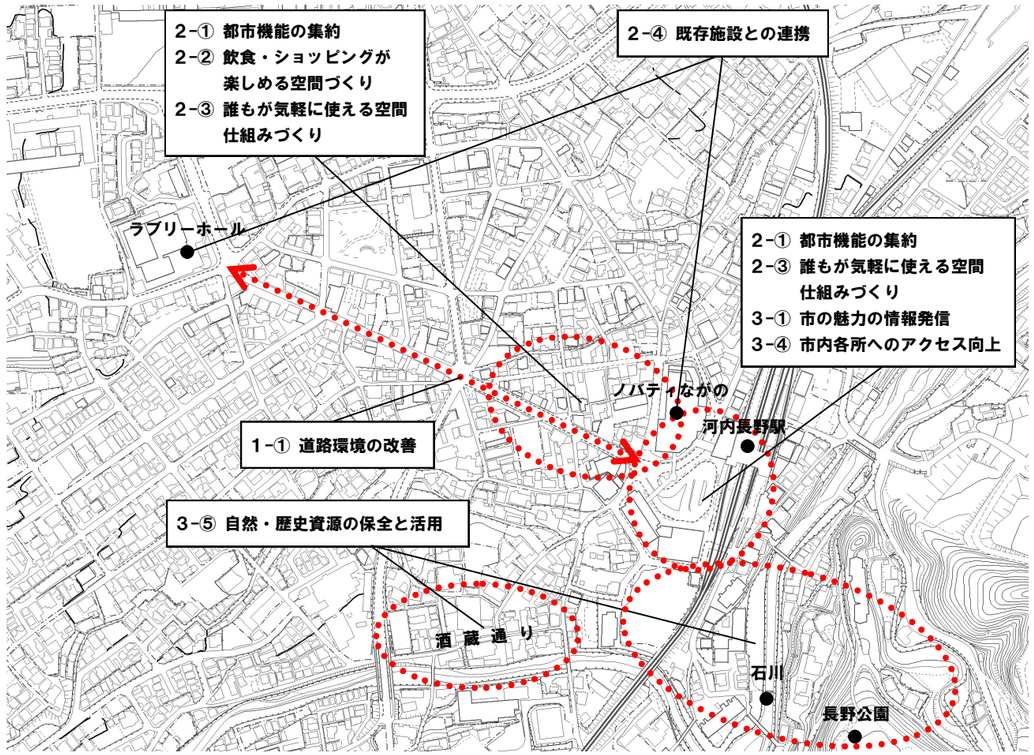


図4　取組み内容イメージ図

2　まちづくりのイメージ

これまでの将来像や基本方針、取組みなどをもとに、本方針に基づくまちづくりのイメージを下図のように示します。

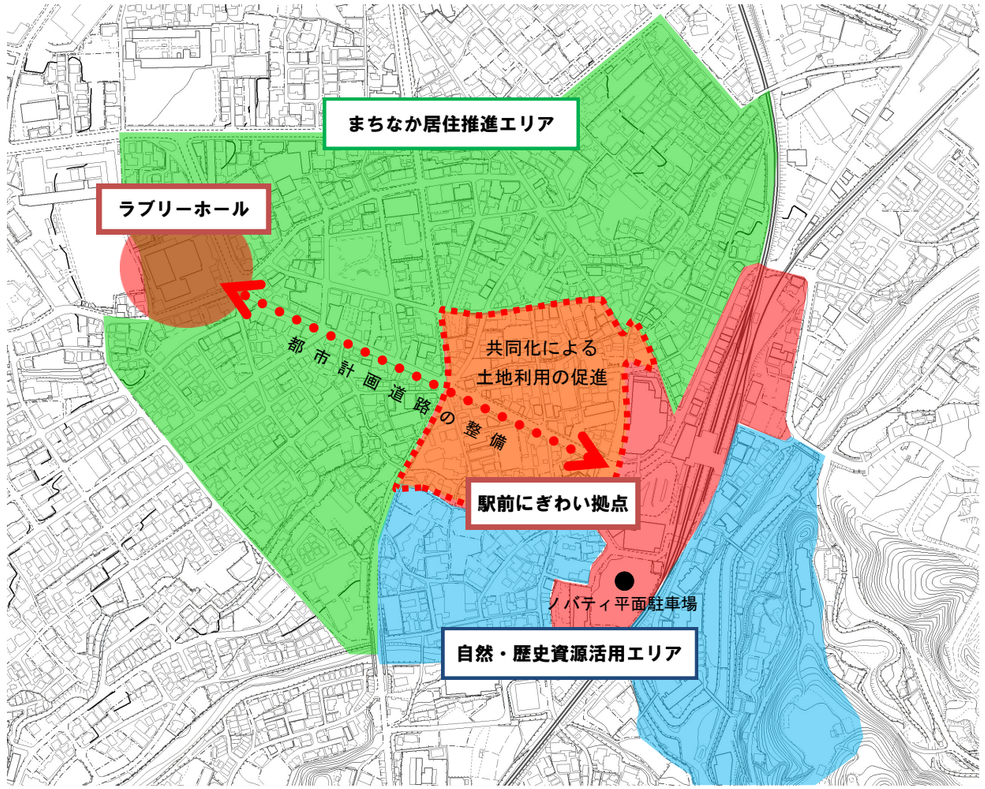


図5　まちづくりのイメージ図

①まちなか居住推進エリア

まちなか居住エリアでは、子育て世代や高齢者など幅広い世代のライフスタイルに合わせた住宅供給や住みやすい住環境の整備促進を図ります。

都市計画道路河内長野駅前線の整備促進や、木造建築物の不燃化の推進などによる住環境の向上を進めることで、子育て世代から高齢者まで幅広い世代が安心安全に歩いて暮らせるまちづくりを進めます。

②自然・歴史資源活用エリア

自然・歴史資源活用エリアでは、河内長野駅周辺地区の魅力である高野街道のまち並みなどの歴史資源や、長野公園・石川などの自然資源を活かす取組みを推進します。回遊性を向上させるとともに、地区全体の魅力向上につなげます。

③駅前にぎわい拠点

駅前にぎわい拠点では、「市の都市拠点」として、都市機能が充実した、市民が集い、にぎわいや活気が生まれるまちづくりを進め、本市の文化施設であるラブリーホールをもう一つの核とし、一体的なにぎわいを創出します。

具体的な整備手法としては、長野商店街を中心に、都市計画道路河内長野駅前線の整備と併せ、共同化土地利用等による連鎖的なまちづくり（※図6参照）を進めます。

また、ノバティ平面駐車場などの市有低未利用地等の活用を積極的に検討します。

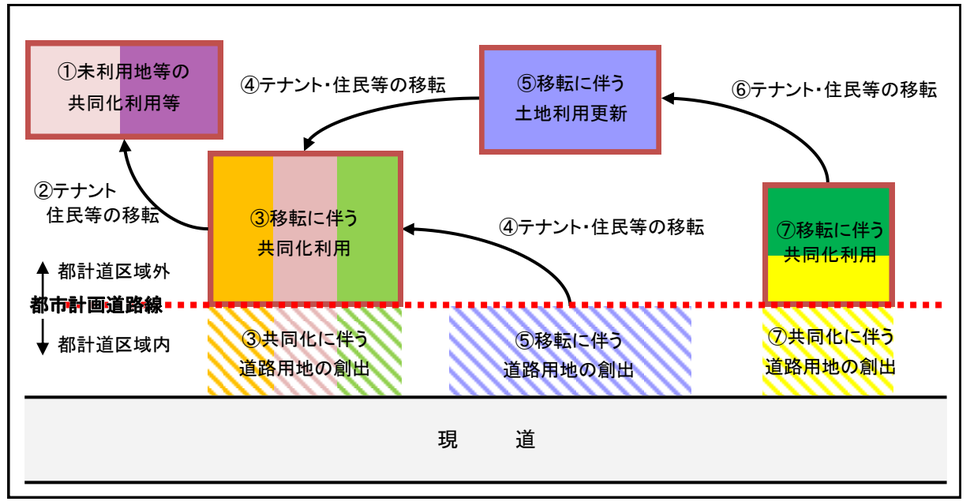
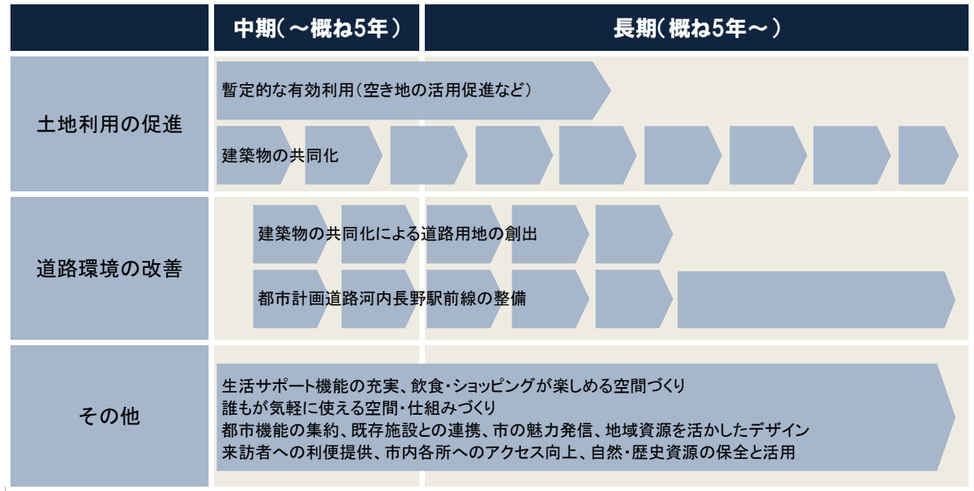


図6　連鎖的なまちづくりのイメージ図

3　取組みスケジュール

本方針は、概ね下記スケジュールに基づき、進めていきます。



４　将来像のイメージパース（鳥瞰図）

河内長野市
〒586-8501 河内長野市原町一丁目1番1号
TEL:0721-53-1111(代表)　FAX:0721-55-1435

表紙画像提供：Google、DigitalGlobe